

# 『十三世紀フランス語聖書』 彩飾写本研究： 13世紀後半におけるパリ彩飾写本市場の変容

Manuscripts enluminés de la *Bible française du XIIIe siècle* : quelques remarques  
sur la transformation du marché parisien dans la seconde moitié du XIIIe siècle

駒 田 亜紀子

## 1. はじめに

『十三世紀フランス語聖書 *Bible française du XIIIe siècle*』は、13世紀中葉～60年代前半にパリで成立した、初の完訳版フランス語聖書である<sup>1</sup>。今日、断片を含め、1260年代後半から15世紀後半にかけて制作された30点余の写本作品が伝存するが、その多くは何らかの挿絵彩飾を伴う作例である<sup>2</sup>。

筆者は、2014年3月に発表した論考<sup>3</sup>において、『十三世紀フランス語聖書』写本伝承系統 (stemma) 上失われたオリジナルに最も近いとされる写本の一つ、ルーアン市立図書館185番写本 (以下 Rouen 185と略す)<sup>4</sup>について、挿絵制作に従事した3人の挿絵画家のうちの筆頭画家 A と、いわゆる〈ヨハネス・グラッシュ工房〉<sup>5</sup>との様式比較を軸に、13世紀後半パリの写本彩飾における画家 A の位置づけを試みた。拙論で筆者が取り上げた比較例は、パリ近郊の旧サン・モール・デ・フォセ修道院に由来する註解付ラテン語聖書写本 (パリ、フランス国立図書館、ラテン語11543-47番写本)<sup>6</sup>の彩飾である。

一方、2016-17年に発表した論考では、13世紀後半にパリで活躍した『十三世紀フランス語聖書』写本彩飾画家のレパートリーを検証し、1260年代前半頃までのレパートリーと1260年代後半以降のそれとの間に生じた変化とそれに伴う顧客環境の変化に注目した<sup>7</sup>。特に、『十三世紀フランス語聖書』写本の現存最古の作例 (1265-70年頃) であるポルトガルのエヴォラ公立図書館 Cod. CXXIV/1-1番写本 (以下 Evora と略す) の挿絵彩飾を担当した逸名の彩飾画家、通称〈デュプラの画家 Maître Duprat〉について、先行研究で提示された同画家のコーパスを大幅に拡充した。その結果、同画家の32点の帰属写本中、1260年代以降にパリの彩飾写本市場に浸透し始める世俗用途の写本作品、就中仏語訳ローマ法令集の占める割合が高いことを明らかにし、デュプラの画家の手がける仏語訳法令集の彩飾写本の顧客として、法曹界の実務官僚や行政官が重要な位置を占める可能性を指摘した<sup>8</sup>。

2014年の論考では、Rouen 185の筆頭画家 A の様式的位置付けをめぐり、同時代の聖書写本に比較例を求めたが、この画家のレパートリーや顧客環境をより具体的に探る手がかりを得るには至らなかった。本稿では、2014年の拙論で取り上げた註解付ラテン語聖書写本に改めて注目し、2014年以降の調査を経て考察の射程に加わったローマ法や教会法の仏語訳、慣習法<sup>9</sup>などの写本作品を参照しつつ、『十三世紀フランス語聖書』の成立・普及期 (1260年代後半～1280年代) に

おけるパリ彩飾写本市場の動向に光を当てたい。

## 2. 旧サン・モール・デ・フォセ修道院の註解付ラテン語聖書（パリ、フランス国立図書館、ラテン語11543-11547番写本）<sup>10</sup>【別表】参照

本稿で改めて取り上げる旧サン・モール・デ・フォセ修道院由来の註解付聖書は、現在、フランス国立図書館ラテン語11543-11547番写本の5巻より構成される。小型の1巻本ラテン語聖書とは異なり、複数の彩飾画家の共同作業により複数年を費やして制作される註解付聖書<sup>11</sup>は、複数巻構成であるがゆえに、伝来の過程で散逸や欠落が生じ、各巻の構成にも変更が加えられたと推測される。現存する5巻の写本には、テキスト内容と各巻の折丁構成との対応関係により、以下の①～⑧のテキスト群（booklet / *libellus*）を識別することができる。すなわち、① lat. 11543 (230 ff.)：創世記・出エジプト記；② lat. 11544 (260 ff.)：レビ記、民数記、申命記；③ lat. 11545 (fols. 1-156)：箴言、コヘレトの言葉、雅歌、知恵の書、集会の書；④ lat. 11546 (269 ff.)：イザヤ書、エレミヤ書、哀歌；⑤ lat. 11545 (fols. 157-322)：エゼキエル書、ダニエル書；⑥ lat. 11545 (fols. 323-437)：12小預言書（ホセア書～マラキ書）；⑦ lat. 11547 (fols. 1-86)：ヨブ記；⑧ lat. 11547 (fols. 87-214)：使徒言行録、使徒書簡、黙示録、である。現状では第3巻に相当するラテン語11545番写本は、③ fols. 1-156, ⑤ fols. 157-322, ⑥ fols. 323-437にそれぞれ対応する3冊を1冊に合本した結果、現在のような変則的な内容構成を取るに至ったと推測される<sup>12</sup>。このことは、後述するように、テキスト群と彩飾画家の作業分担が一致することからも裏付けられる。現存写本に含まれないヨシュア記、士師記、ルツ記、列王記、歴代誌、エズラ記、ネヘミヤ記、トビト記、ユディト記、エステル記、マカバイ記を収録した巻は、伝来の過程で失われたと見られる。また、詩篇、福音書、パウロ書簡は、ペトルス・ロンバルドゥスの『命題集 *Libri quatuor Sententiarum*』等の聖書註解により、当初から代替されていた可能性もあろう。

聖書各巻の序文および本文の冒頭には、金と彩色による意匠化された植物文様を主体とする装飾イニシアル（序文）と何らかの図像表現を含む物語イニシアル（本文）が施されている。一方、本文の第2章以下の下位分節の冒頭には、赤と青のインクのペン線描による線條装飾イニシアルが記されている。金と彩色による装飾イニシアルおよび物語イニシアルの彩飾には、テキスト群を作業分担の単位として、1260年代半ばから1280年代初頭にかけてパリで活躍したと見られる5人の異なる彩飾画家の手が識別される。以下の考察では、5人の画家に、彩飾の様式分析に基づき推定される制作年代の順に、1～5の識別番号を与え、それぞれの画家の様式ならびにレパートリーの特徴を明らかにしたい。

### （1）デュプラの画家（【別表】画家1）：③ lat. 11545 (fols. 1-156)：箴言、コヘレトの言葉、雅歌、知恵の書、集会の書（図5）

現存する8つのテキスト群のうち、最初に制作されたとみられるのは、1260年代半ばから1270年代前半にかけて活躍し、『十三世紀フランス語聖書』の現存最古の作例である Evora 写本の挿絵を手掛けた、〈デュプラの画家〉＝画家1による③群（lat. 11545, fols. 1-156：箴言、コヘレトの言葉、雅歌、知恵の書、集会の書）である<sup>13</sup>。矩形の枠に囲まれた雅歌・序文冒頭の装飾イニ

シアル T (*ria sunt oscula ...*) (fol. 59) の左側の角から上下方向にまっすぐに伸びるアンテナ装飾は、植物の芽のような先端に向かってわずかに湾曲する。イニシアルを囲む矩形枠の内部に、T の縦画を境に左右対称に描かれた蔓草状のモチーフには、カーヴに沿って白の細線によりハイライトが施され、緩やかな肥瘦が表現されている。イニシアル内部の蔓草状のモチーフは、ほぼ曲線のみにより構成され、しばしば左右対称のパターンを描く。一方、T の縦画本体には、斑点状のハイライトが等間隔に施されている。

(2) 『王妃の書 *Le Livre la Roine*』の画家 (【別表】画家2) : ④ lat. 11546 : イザヤ書、エレミヤ書、哀歌 ; ⑤ lat. 11545 (fols. 157-322) : エゼキエル書、ダニエル書 (図6, 7)

1260年代後半から1270年代前半に制作されたとみられる〈デュプラの画家〉=画家1による③群の装飾/物語イニシアルに対し、四大預言書を含む④群 (lat. 11546 : イザヤ書、エレミヤ書、哀歌) および⑤群 (lat. 11545, fols. 157-322 : エゼキエル書、ダニエル書) の装飾/物語イニシアル<sup>14</sup>は、Rouen 185の筆頭画家A = 画家2により、1270年代後半から80年代の初め頃に制作されたと推測される。Rouen 185の筆頭画家A = 画家2の手になる装飾イニシアル (図6) では、イニシアルを囲む矩形枠の角から上下方向に伸びるアンテナ装飾が緩やかな弧を描きながら先端部に向かって湾曲し、アンテナの中途に設けられた節にしばしば柊の葉のような突起を伴う。イニシアルの文字本体の内部に描かれた蔓草状のモチーフは、〈デュプラの画家〉=画家1による③群のそれよりもより細く、左右対称に絡み合う複雑なアラベスク文様の中に、三角形あるいは逆三角形のパターンを組み込んだ意匠をしばしば描く。

Rouen 185の筆頭画家A = 画家2による装飾イニシアルを特徴づけるこれらの意匠は、2014年の拙論で指摘した同画家による人物描写 (図7) の特徴とともに、1280年代前半に制作されたと推定される『王妃の書 *Le Livre la Roine*』と題された仏語の法律書集成 (パリ、フランス国立図書館、フランス語5245番写本)<sup>15</sup>に見出される (図9)。2014年の拙論でも指摘したように、『旧サン・モール・デ・フォセ修道院の註解付ラテン語聖書』の画家2は、1977年のR. ブラナーの労作以来、複数の彩飾画家を束ねた〈ヨハネス・グラッシュ工房〉というジェネリックな呼称の下に分類されてきた<sup>16</sup>。物語イニシアル内部の人物像表現においても、蔓草文を主体に構成される装飾イニシアルの意匠においても、様式的なばらつきが大きい〈ヨハネス・グラッシュ工房〉帰属作品から画家2の手を識別するため、本論では、Rouen 185の筆頭画家A = 画家2が単独でカラム内挿絵と装飾イニシアルの制作を担った『王妃の書 *Le Livre la Roine*』にちなみ、この逸名の彩飾画家を〈『王妃の書』の画家 *Maître du Livre la Roine*〉と呼ぶことを提案したい。

『王妃の書』の画家 = 画家2の手になる挿絵彩飾を含む写本作品は、デュプラの画家 = 画家1の帰属作品 (コーパス) に比べ、非常に限られているように思われる。これまでの調査で筆者の気づいた作品としては、ボローニャのタンクレドゥスによる『教会法令集註解 *Ordo judicarius*』の仏語訳写本 (パリ、フランス国立図書館、フランス語1073番写本)<sup>17</sup>とトロワの市立図書館所蔵の1巻本ラテン語聖書 (トロワ、市立図書館、ms. 1182)<sup>18</sup>が挙げられる。旧サン・モール修道院の註解付ラテン語聖書のうちの2巻 (④ lat. 11546および⑤ lat. 11545, fols. 157-322)、1巻本ラテン語聖書 (トロワ)、『十三世紀フランス語聖書』 (Rouen 185) (図10)、そして2点の仏語訳法令集 (教会法、ローマ法/慣習法) (フランス国立図書館、フランス語1073および5245番写本)

というコーパスの構成は、『十三世紀フランス語聖書』が普及した1270年代後半から80年代の初め頃のパリにおいて、法曹界の実務官僚や行政官を新たな顧客層に迎えつつあった彩飾写本市場の転換期の様相を、小規模ながら如実に反映したものと思われる。

(3) 画家3 (【別表】画家3) : ② lat. 11544 (260 ff.) : レビ記、民数記、申命記 ; ⑦ lat. 11547 (fol. 1-86) : ヨブ記 ; ⑧ lat. 11547 (fols. 87-214) : 使徒言行録、使徒書簡、黙示録 (図3, 4)

②および⑦・⑧群を担当した画家3の手がけた装飾イニシアルは、『王妃の書』の画家=画家2のそれに比して、以下の特徴により、識別される。すなわち、イニシアルを囲む矩形枠の角から伸びるアンテナ装飾は中途に節を持たないが、LやFなど文字の上方に伸びるアセンダーや下方に伸びるディセンダーの幅広の縦画を構成する3本の帯状区画のうちの外(左)側の帯に、等間隔に並ぶ金色の小円文を伴う(図3, 4)。アセンダーの上端はしばしば直角に折れ曲がり、柊の葉のような突起を持つ、丁字状あるいは曲尺状のアンテナ装飾を伴う。矩形枠に囲まれたイニシアルの文字本体の内側に配される蔓草によるアラベスク文様は、『王妃の書』の画家=画家2の手になるそれがフリーハンドで引かれた曲線の持つ緩やかな肥瘦を留めている(図6)のに対し、肥瘦のない、幾何学的に整えられた細く緊密な曲線により構成される(図3)。曲線と三角形などの幾何学図形で囲まれた区画はしばしば金色地に塗り分けられる。アラベスク文様を構成する蔓草の中には、時折、エメラルド・グリーンの蔦の葉が挿入される(図3)。物語イニシアルでは、ゆったりしたドラプリーに包まれ豊かな身振りを示す『王妃の書』の画家=画家2の描く人物像(図7)に対し、コンパクトな衣襲に身を包んだ、瘦身・側面観の人物像が好まれる(図4)。装飾イニシアル内部の蔓草文様の「幾何学化」は、画家3の活動時期が『王妃の書』の画家=画家2のそれより遅い時期であることを示唆する。

画家3の手がけた写本作品としては、ソルボンヌの蔵書由来の1270年代の前半の制作と推定される2点の中型ラテン語聖書(パリ、フランス国立図書館、ラテン語15467、15477番写本)、1280年代以降の制作と推定される小型ラテン語聖書(パリ、フランス国立図書館、ラテン語211番写本)などの、聖書写本が挙げられる<sup>19</sup>。

(4) 画家4 (【別表】画家4) : ⑥ lat. 11545 (fols. 323-437) : 12小預言書(ホセア書~マラキ書) (図8)

画家4の装飾イニシアルの意匠並びに物語イニシアルに見られる人物描写は、画家3(図3, 4)のそれと非常に似通っており、厳密な識別は時に困難である。装飾イニシアル内部の蔓草モチーフのパターンは画家3のそれに共通する特徴を示す一方、内部に描かれるエメラルド・グリーンの蔦の葉は画家3のそれに比して大型化し、渦巻き状に旋回する文様の中心部を占める。イニシアルを囲む矩形枠から伸びるアンテナ装飾は、中途に節を幾つも作り折れ曲がりながら、鉤爪のような形状を呈する(図8)。アンテナ装飾の中途の節や鉤爪状の先端部を止まり木に見立てて小鳥を描く意匠も、画家4を識別する特徴的な細部である。物語イニシアル内部の人物は、画家3のそれに比べて頭部が大きく、俯き加減に頭部を傾けた姿勢をとることが多い<sup>20</sup>。

画家4の手になる装飾イニシアルを含む作例としては、ヴァティカン教皇庁図書館所蔵のアウ



グスティヌス『神の国』写本（ヴァティカン、教皇庁図書館、Palat. Lat. 196）（図11）<sup>21</sup>など、1280年代前半から半ばの制作と推定される写本作品が挙げられる。

（5） 画家5（【別表】画家5）：① Lat. 11543（230 ff.）：創世記・出エジプト記（図1, 2）

画家3および4の装飾イニシアルが柊の葉のような突起あるいは小刻みに節を作って折れ曲がるアンテナ装飾を特徴とするのに対し、画家5の装飾イニシアルでは、イニシアルを囲む矩形枠の角から伸びるアンテナ装飾の先端部に鋭い突起を持つ曲線を小刻みに反復した鋸歯状のモチーフを伴う。これらの鋸歯状モチーフは、しばしばアセンダー/ディセンダーの先端部で左右対称の蔓となって分岐し、その内側に金の小円文を置く（参考：図12）。物語イニシアルに描かれる人物は、貧弱な体躯に比して不釣り合いに大きな逆三角形の頭部と、やや誇張気味の身振りを特徴とする（図1, 2）<sup>22</sup>。

画家5の手がけた写本作品としては、1280年代前半から半ばの制作と推定される1巻本ラテン語聖書（パリ、マザラン図書館、ms. 21；ランス、市立図書館、ms. 43）<sup>23</sup>に加え、上述の『王妃の書』の画家＝画家2の手になる写本作品と同種のテキストを収録する、ボローニャのタンクレドゥスによる『教会法令集註解 *Ordo judiciarius*』の仏語訳写本（パリ、フランス国立図書館、フランス語1074番写本）（図12）<sup>24</sup>、ユスティニアヌス法典仏語訳写本（パリ、フランス国立図書館、フランス語495番写本）<sup>25</sup>などが挙げられる。これらの作例は、画家5のレパートリーひいては顧客層が、『王妃の書 *Livre la Roine*』の画家＝画家2のそれに共通するものであったことを示唆する。『王妃の書 *Livre la Roine*』の画家＝画家2と共に、研究の現状ではコーパスが限定的な画家5の帰属作品の同定を進めて精査することにより、1270年代後半から80年代半ば頃にかけてのパリの彩飾写本市場の変容の様相を、より具体的に追究することも可能となろう。

### 3. 結語

本稿では、『十三世紀フランス語聖書』写本伝承系統（*stemma*）上失われたオリジナルに最も近いとされる写本の一つ、ルーアン市立図書館185番写本の筆頭画家である〈『王妃の書』の画家〉の帰属作品の一つとして、サン・モール修道院旧蔵の註解付ラテン語聖書に改めて注目し、同聖書の挿絵彩飾に従事した5人の画家それぞれのレパートリーの検証を通じて、1260年代後半から1280年代半ばにかけてのパリ彩飾写本市場の変容の一端に光を当てることを試みた。2016-17年の論考でも考察したように、複雑な欄外注記を文字通り縦横無尽に網羅した註解付ラテン語聖書と、平易なレイアウトと解りやすい挿絵彩飾により聖書写本の新たな地平を開いた『十三世紀フランス語聖書』は、聖書写本の両極に位置するよう見えながら、後者の成立には、前者が、仏語訳の底本としても彩飾画家の供給元としても、密接な関わりを持っていた。

註解付ラテン語聖書に関する調査・研究は、複数年にわたる紆余曲折を経た制作過程や作品の伝来過程での散逸ゆえに、大きな困難を伴う場合が少なくない。アッシジのサクロ・コンヴェント図書館が所蔵する、同図書館の設立時期に遡る蔵書と見られる13世紀後半パリで制作された註解付ラテン語聖書に関する考察<sup>26</sup>や、13世紀後半のパリでクレルモン司教ギョが注文した10巻本構成の註解付ラテン語聖書の制作状況を追ったラウス夫妻による事例研究<sup>27</sup>は、しかしながら、

こうした探求が、13世紀後半におけるパリ彩飾写本市場の変容とそれに連動する写本レパートリーや顧客層の拡大をより具体的な相の元に明らかにする貴重な示唆を与えることを示している。

#### 註

- 1 『十三世紀フランス語聖書』写本テキストに関する最も包括的な解説としては、NOBEL (P.), «La traduction biblique», in GALDERISI (C.), AGRIGORAEI (V.) (dir.), *Translations médiévales. Cinq siècles de traductions en français au Moyen Âge (XI<sup>e</sup>-XV<sup>e</sup> siècles)*. Étude et répertoire, Turnhout, 2011, vol. 1, p. 207-223 ; vol. 2, t. 1, pp. 121-123を参照。
- 2 『十三世紀フランス語聖書』彩飾写本の概要については、拙論 KOMADA (A.), *La première génération de la Bible française du XIII<sup>e</sup> siècle*, in : *Lusitania Sacra*, tome XXXIV (2016), pp. 105-135 ; 拙論、「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIII<sup>e</sup> siècle*) 彩飾写本研究：最初期の作例から見る顧客環境」、『実践女子大学文学部 紀要』第59集 (2017), pp. 1-14、および引用した先行研究を参照。A. ストーンズは、2013-14年刊のフランス・ゴシック期 (1260-1320) 彩飾写本カタログの第2部において、『十三世紀フランス語聖書』の主要な作例を挿絵主題対照表と図版により概観し、この時期に台頭した新ジャンルの一つとして注目する。STONES (A.), *Gothic Manuscripts 1260-1320*, 4 vols., London, Harvey Miller / Turnhout, Brepols, 2013-2014 : en part., Part II, vol. 2 (2014), pp. 115-128, ill. 232-254.
- 3 拙論、「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIII<sup>e</sup> siècle*) 彩飾写本研究：地域展開の諸相 (2)」、『実践女子大学美術美術史学』第28号 (2014)、pp. (19) - (38)。
- 4 Rouen, Bibliothèque municipale, ms. 185. Cf. : BERGER (S.), *La Bible française au Moyen Âge. Etude sur les plus anciennes versions de la Bible écrites en prose de langue d'oïl*. Paris, 1884, pp. 119, 383 ; OMONT (Henri), *Catalogue générale des manuscrits des bibliothèques publiques de France, Tome I (Département Rouen)*, Paris, 1886, pp. 39-40 ; SNEDDON (C.R.), *A Critical Edition of the Four Gospels in the Thirteenth-Century Old French Translation of the Bible*, Ph. D., 2 vols, University of Oxford, 1978, en part., intro pp. 4-, 178-181 ; STONES, *op. cit.*, Part II, vol. 2 (2014), pp. 115-128, p. 127 note 4, Ills. 242-44.
- 5 〈ヨハネス・グラッシュ工房〉は、Johannes Grusch なる写字生が1267年に筆写したラテン語聖書 (Sarnen, Bibliothek des Kollegiums, ms. 16) の挿絵を基準作として R. プラナーが命名した、逸名の彩飾写本画家・工房である。BRANNER (R.), *The Johannes Grusch Atelier and the continental origins of the William Devon painter*, in : *Art Bulletin*, vol. LVI (1972), pp. 24-30 ; Idem, *Manuscript Painting in Paris during the Reign of Saint Louis*, Berkeley, 1977, pp. 82-86, 222-223, figs. 212-243を参照。様式的なばらつきの大い同画家・工房の帰属作品を再定義すべく、M.-Th. グセは、近年、フィレンツェ所蔵のポリフォニー聖歌集 (Firenze, Biblioteca Laurenziana, ms. Plut. 29. I) を基準作として、同画家を新たに「ポリフォニーの画家」と命名した。Cf. GOUSSET (M.-Th.), *La décoration du 'prototype' et des manuscrits liturgiques apparentés*, in : BOYLE (L.), GY (P.-M.), éd., *Aux origines de la liturgie dominicaine : le manuscrit Santa Sabina XIV L 1* (Actes du colloque international, Rome, 2-4 mars 1995), Paris / Rome, CNRS-Ecole Française de Rome, 2004, pp. 43-57, figs. 1-16.
- 6 拙論2014, *passim*, 図7 (lat. 11545, fol. 393v)、図8 (lat. 11546, fol. 2v)。
- 7 KOMADA, *op. cit.*, 2016 ; 拙論2017, *passim*。拙論では、13世紀中葉から第3四半世紀のパリにおける彩飾写本のレパートリーの変容を論じたが、その根底には、1260年前後を一つの区切りとするパリ彩飾写本の編年に根本的な再検討が必要との問題意識がある。その一例として、A. ストーンズによる近年

- の労作であるゴシック期のフランス彩飾写本カタログは、おおよそ1260-1320年の期間を扱う。しかしながら、フランス・ゴシック期の彩飾写本研究において1260年をひとつの区切りとする視座は、1977年刊のR. ブラナーの遺著（注5参照）において、いわゆる《聖王ルイの詩編集》（Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. lat. 10525）の制作時期をルイ9世存命中の1260年代とする前提の下になされた、13世紀第2・3四半世紀の作品群の（往々にして早過ぎる）編年に依拠しているように思われる。R. ブラナーによる編年の問題点に言及する近年の論考として、KIDD (Peter), *The McCarthy Collection. Vol. III : French Miniatures*. AD ILISSVM / Paul Holberton Publishing, 2021, pp.9-13 ; STIRNEMANN (Patricia), Quelques remarques sur les bibles peintes par l'enlumineur dit «Aurifaber», in : GRAS (S.) et LEGARE (A.-M.), éd., *Lumières du Nord. Les manuscrits enluminés français et flamands de la Bibliothèque nationale d'Espagne*. Presse Universitaire du Septentrion, 2021, pp. 93-107を参照。
- 8 R. ブラナーによる〈デュプラの画家〉の定義と帰属写本については、以下を参照：BRANNER, *op. cit.*, 1977, pp. 78-80, 218-219（カタログ）, figs. 185-198 : ブラナーはカタログにおいて計19点の写本に〈デュプラの画家〉の関与を認めているが、筆者はこれらのうち3点を同画家の作品コーパスより除外し、新たに16点の写本を加えることを提案した。Cf. KOMADA, *op. cit.*, 2016, pp. 133-135.
- 9 ゴシック期フランスにおけるローマ法令集および慣習法を扱った彩飾写本の概要については、STONES, *op. cit.*, Part I, vol. 1 (2013), p. 20-22を参照。
- 10 Cf. <https://archivesetmanuscripts.bnf.fr/ark:/12148/cc73080x> (accessed 10 Oct. 2022).
- 11 複数巻構成の註解付ラテン語聖書の制作実態については、ROUSE (H. and M.), *Manuscripts and their Makers. Commercial Book Production in Medieval Paris, 1200-1500*. 2 vols., London, Harvey Miller / Turnhout, Brepols, 2000, vol. 1, chap. 2 を参照。
- 12 各巻の冒頭葉 (fol. 1) には、18世紀の整理番号と思われるアラビア数字が記されている（【別表】「旧番号」）。Lat. 11543: “N. 25” ; lat. 11544: “N. 26” ; lat. 11545: “N. 32” ; lat. 11546: “N. 33” ; lat. 11547: “N. 36”.
- 13 Cf. BRANNER, *op. cit.*, 1977, fig. 193.
- 14 Cf. BRANNER, *op. cit.*, 1977, fig. 230.
- 15 ローマ法令集（ユスティニアヌス法典）の仏語訳抜粋、フランス王ルイ9世（1270年没）に仕えた法学者ピエール・ド・フォンテーヌの『助言集』、ノルマンディー慣習法抜粋等を収録する。Cf. <https://archivesetmanuscripts.bnf.fr/ark:/12148/cc90869v> (accessed 10 Oct. 2022). 同写本および同種のテキストを収録した写本作品については、MAININI (Lorenzo), *Intorno al Livre la Roine (Paris, BNF, fr: 5245)*. Tradizione e redazione d'un libro giuridico duecentesco, in : *Revue d'histoire des textes*, vol. 13 (2018), pp. 331-354を参照。
- 16 R. ブラナーが〈ヨハネス・グラッシュ工房〉に帰属させた旧サン・モール・デ・フォセ修道院の註解付ラテン語聖書の装飾 / 物語イニシアルを、本論では、画家2・画家3・画家4・画家5の4人の異なる手の作として識別している。Cf. BRANNER, *op. cit.*, 1977, “Johannes Grusch Atelier” : fig. 230 (= ④画家2), 233 (= ⑥画家4), 235 (= ⑦画家3), 237 (= ②画家3), 238 (= ①画家5), 241 (= ⑧画家3) を参照。拙論2014, fig. 8 (Lat. 11546, fol. 2v = ④画家2)。
- 17 Tancred de Bologne, *Ordo judicarius*: cf. <https://archivesetmanuscripts.bnf.fr/ark:/12148/cc422456> (accessed 10 Oct. 2022). 同写本テキストについては、以下を参照：GALDERISI (Claudio), avec la collaboration de AGRIGORAEI (Vladimir), *Translations médiévales. Cinq siècles de traductions en français au Moyen Âge (XIe-XVe). Etude et Répertoire*. Brepols, 2011, Volume 2 : *Le Corpus Transmédie : Répertoire, «enfer», «purgatoire» et «limbes» / t. 2 : Les langues du savoir et Belles Lettres P-Z ; les langues romanes, germaniques et sémitiques suivies des supercheres, du «purgatoire», de l'«enfer» et des «limbes», p. 1342, no. 1189 “Tancred*

de Bologne, *Ordo judiciarius*, 1216" .

- 18 <http://initiale.irht.cnrs.fr/codex/4928/13343> (accessed 10 Oct. 2022).
- 19 ラテン語15467番写本には1270年の年記がある。Cf. BRANNER, *op. cit.*, 1977, figs. 217 (lat. 15467), 218 (lat. 211), 234 (lat. 15477), cat. p. 223 ; cf. GOUSSET, *op. cit.*, 2004, pp. 54-55.
- 20 Cf. BRANNER, *op. cit.*, 1977, fig. 233.
- 21 Cf. [https://digi.vatlib.it/view/bav\\_pal\\_lat\\_196](https://digi.vatlib.it/view/bav_pal_lat_196) (accessed 10 Oct. 2022).
- 22 Cf. BRANNER, *op. cit.*, 1977, fig. 238.
- 23 Paris, Bibliothèque Mazarine, ms. 21 ; cf. <http://initiale.irht.cnrs.fr/decor/29569> (accessed 10 Oct. 2022); Reims, Bibliothèque municipale, ms. 43 ; cf. <http://initiale.irht.cnrs.fr/codex/3690/10822> (accessed 10 Oct. 2022).
- 24 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. fr. 1074, fol. 28, 125, 130 ; cf. <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc42253x> (accessed 10 Oct. 2022).
- 25 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. fr. 495, fol. 157v, 168v, 177, 185v, 192v, 205, 217, 232, 247v, 253v, 261, 275 ; cf. <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc71768c> (accessed 10 Oct. 2022).
- 26 Cf. ASSIRELLI (Marco), BERNABO (Massimo), BIGALLI LULLA (Giovanna), introduzione di CIARDI DUPRE DAL POGGETTO (Maria Grazia), *La Biblioteca del Sacro Convento di Assisi. I: I Libri miniati di età Romanica e Gotica* (Il miracolo di Assisi. Collana storico-artistica della Basilica e del Sacro Convento di S. Francesco - Assisi. 7-I), Assisi: Casa Editrice Francescana, 1990, pp. 110-128, 131-194, pl. XL-LXXII (Assisi, Biblioteca del Sacro Convento, mss. 1-7, 9-13, 15 ; Vatican, Biblioteca Apostolica, mss. Ross. 219, 300, 613, 616).
- 27 Cf. ROUSE, *op. cit.*, 2000, vol. 1, chap. 2.



【別表】 旧サン・モール・デ・フォセ修道院の註解付ラテン語聖書におけるテキスト群と彩飾画家の作業分担

テキスト群	写本番号 (該当フォリオ)	フォリオ数	旧番号	収録 テキスト	イニシアル	画家
①	Paris, BNF, lat. 11543	230	N. 25	創世記 出エジプト記	1 (創・序：装、消失)；3 (創・本：創造主) (図1)；116 (出・本：イスラエルを率いるモーセ) (図2)	画家5 (図1, 2)
②	Paris, BNF, lat. 11544	260	N. 26	レビ記 民数記 申命記	1v (レビ・本：祭壇への奉納)；86 (民・序：装) (図3)；87v (民・本：神を仰ぐモーセ)；192 (申・序：装)；192v (申・本：契約の櫃) (図4)	画家3 (図3, 4)
③	Paris, BNF, lat. 11545 (fols. 1-156)	156	N. 32	箴言 コヘレトの言葉 雅歌 知恵の書 集会の書	1 (箴・序：装)；1 (箴・本：イニシアル消失)；44v (コヘ・本1, 1：王と母子)；45v (コヘ・本1, 2：玉座の王)；59 (雅・序：装) (図5)；59v (雅・本：聖母子)；77v (知・本：王と騎士)；99 (集・本：エクレスシア)	画家1 = デュ ブラの画家 (図5)
④	Paris, BNF, lat. 11546	269	N. 33	イザヤ書 エレミヤ書 哀歌	1 (イザ・序：装)；2v (イザ・本：イザヤの殉教)；122 (エレ・序：装)；122v (エレ・本：エレミヤの殉教)；226v (哀・序：装)；227v (哀・第1歌：装)；258 (哀・第4歌：装)	画家2 = 『王 妃の書』の画 家
⑤	Paris, BNF, lat. 11545 (fols. 157-322)	175		エゼキエル書 ダニエル書	157 (エゼ・序：装) (図6)；159 (エゼ・本：エゼキエルの幻視) (図7)；280 (ダニ・序：装)；281 (ダニ・本：獅子の穴の中のダニエル)	画家2 = 『王 妃の書』の画 家 (図6, 7)
⑥	Paris, BNF, lat. 11545 (fols. 323-437)	114		12小預言書 (ホセア、ヨエル、アモス、オバデヤ、ヨナ、ミカ、ナホム、ハバクク、ゼファニア、ハガイ、ゼカリヤ、マラキ)	323, 323v (ホセ・序：装)；324v (ホセ・本：抱擁する男女)；345v (ヨエ・序：装)；346 (ヨエ・本：巻紙を持つ預言者)；354v (アモ・序：装)；355 (アモ・本：神を仰ぐ預言者)；369v, 370, 370v (オバ・序：装)；370v (オバ・本：巻紙を持つ預言者)；373, 373, 373v (ヨナ・序：装)；373v (ヨナ・本：大魚の口から脱出するヨナ)；378 (ミカ・本：巻紙をもつ預言者)；388 (ナホ・本：神殿の前の預言者)；393v, 394 (ハバ・序：装) (図8)；394v (ハバ・本：水と食料を運ぶハバクク)；400v (ゼファ・序：装)；401 (ゼファ・本：巻紙を持つ預言者)；407, 411v (ハガ・序：装)；412 (ハガ・本：巻紙を持つ預言者)；412, 412 (ゼカ・序：装)；412 (ゼカ・本：巻紙を持つ預言者)；431v (マラ・序：装) 431v (マラ・本：巻紙を持つ預言者)	画家4 (図8)
⑦	Paris, BNF, lat. 11547 (fols. 1-86)	86	N. 36	ヨブ記	1 (ヨブ・序：装、消失)；2v (ヨブ・本：ヨブと友人たち)	画家3
⑧	Paris, BNF, lat. 11547 (fols. 87-214)	128		使徒言行録 ヤコブの手紙 ペトロの手紙1 ペトロの手紙2 ヨハネの手紙1 ヨハネの手紙2 ヨハネの手紙3 ユダの手紙 黙示録	87 (使・序：装)；87 (使・本：聖霊降臨)；143v, 143v (ヤコ・序：装)；144 (ヤコ・本：使徒ヤコブ)；153v (1ペト・本：教皇ペトロ)；161 (2ペト・序：装)；162v (2ペト・本：使徒ペトロ)；168v (1ヨハ・本：使徒ヨハネ)；178 (2ヨハ・本：使徒ヨハネ)；179 (3ヨハ・本：使徒ヨハネ)；180 (ユダ・本：使徒ユダ)；183 (黙・序：装)；184 (黙・本：手紙を書くヨハネ)	画家3

【略語】 Paris, BNF, = Paris, Bibliothèque nationale de France, ms.；別表「イニシアル」カラムに示す聖書収録テキスト略語は『聖書協会共同訳聖書』（2018年刊）に準拠。

【凡例】 1 (創・序：装、消失) = fol. 1r (創世記・序文、冒頭装飾イニシアル、消失)；45v (コヘ・本1, 2：玉座の王) = fol. 45v；(コヘレトの言葉、本文1章2節：冒頭物語イニシアル〈玉座の王〉)；323, 323v (ホセ・序：装) = fol. 323r, 323v (ホセア書・序文：冒頭装飾イニシアル)；324v (ホセ・本：抱擁する男女) = fol. 324v (ホセア書・本文：冒頭物語イニシアル〈抱擁する男女〉)

図 1 Paris, Bibliothèque nationale de France,  
ms. lat. 11543, fol. 3. 創世記・本文、物語イ  
ニシアル〈創造主〉画家 5

図 2 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms.  
lat. 11543, fol. 116. 出エジプト記・本文、物語イ  
ニシアル〈イスラエルを率いるモーセ〉画家 5

図 3 Paris, Bibliothèque nationale de France,  
ms. lat. 11544, fol. 86. 民数記・序文、装飾  
イニシアル. 画家 3

図 4 Paris, Bibliothèque nationale de France,  
ms. lat. 11544, fol. 192v. 申命記・本文、物  
語イニシアル〈契約の櫃〉画家 3

図 5 Paris, Bibliothèque nationale de France,  
ms. lat. 11545, fol. 59. 雅歌・序文、装飾イ  
ニシアル. 画家 1 = デュプラの画家

図 6 Paris, Bibliothèque nationale de France,  
ms. lat. 11545, fol. 157. エゼキエル書・序文、  
装飾イニシアル. 画家 2 = 『王妃の書』の画家

図7 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. lat. 11545, fol. 159. エゼキエル書・本文、物語イニシアル〈エゼキエルの幻視〉画家2=『王妃の書』の画家

図8 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. lat. 11545, fol. 393v. ハバクク書・序文、装飾イニシアル. 画家4

図9 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. fr. 5245, fol. 95. 『王妃の書』. 扉絵、装飾イニシアル. 画家2=『王妃の書』の画家

図10 Rouen, Bibliothèque municipale, ms. 185, fol. 142. 『十三世紀フランス語聖書』マカバイ記1・本文. 扉絵、装飾イニシアル. 画家2=『王妃の書』の画家

図11 Vatican, Biblioteca apostolica Vaticana, ms. Palat. lat. 196, fol. 172. 『神の国』装飾イニシアル. 画家4

図12 Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. fr. 1074, fol. 125. ボローニャのタンクレドゥス『教会法令集註解 *Ordo judicarius*』物語イニシアル. 画家5

